

第 2 回地域コミュニティ活性化に関する懇談会に係る追加意見要旨

委員	御意見
平尾委員	<p>○多くの好事例を知れば自らの地域でもそれを適応（実践）できるというものではないところが難しい。「事例」という意味では、失敗事例から学ぶことの方が多思うように思う。</p> <p>○この事例集については、皆で見て、一緒に自分たちの地域について考えてみるという「きっかけ」として位置付けるという意味においては有用であると思う。</p> <p>○ある取組がうまくいか否かは、会長や推進役、あるいは参加者の誰かの声のかけ方など、属人的な理由である場合も多いため、そのあたりについても触れる必要があると思う。</p> <p>○財政面（財源等）に関し、収支状況について整理した活動計算書のようなものがあると、より具体的で比較しやすいのではないかと思う。</p> <p>○廿日市市の事例は、「地域福祉」分野の事業であるが、既存の地縁組織への加入をゴールにしない、個人のレベルから始まる地域との接点づくりということがポイントであり、参考になる部分があると思う。ただ、長期的には町内会・自治会との接点づくりも必要であると思う。</p>
金月委員	<p>○助成金、補助金を受ける為には自己資金が必要となる。自己資金の確保に向けて、懇談会で例として挙げられた、資源ゴミを回収し売ることによる収入について、単一の町内会では実行しているところもあるが、連合町内会（瀬野学区の場合 50 町内会）となると難しい面がある。</p> <p>○補助金の交付期間が限られており、期間経過後の資金調達は苦労している。</p> <p>○郷土愛については、最も大切なことである。平成 30 年豪雨災害の際、貴重な体験をした。「近頃の若い者は」との言葉を聞くことがあるが、子ども達は地域や親の背中をよく見ていると思う。</p>
久保田委員	<p>○今回の懇談会の主旨は、地域コミュニティの活性化の検討であり、地域で言えば、「組織が生き生きと活発になること。」と考えられる。「組織が生き生きとなる」のは、「新しい人が組織に加わる」か、或いは「新しい人が役員になり、リーダーシップをとる」か、さらには「新しい事業を展開する時」ではないか。一方、地域といえば町内会・自治会だが、町内会とは、「同じ地域に住んでいる者が、もっと住みよい地域にするために、皆で努力する組織」と考えられる。このため、町内会未加入者を無くせば、あるいは町内会への加入者を増やせば、住みよい地域に努力する人が増えることになり、組織が生き生きと活発化することが期待できる。</p> <p>○組織は「人」である。「住みよい地域にしよう。」と地域に貢献する人、リーダーシップがとれる人を育てるか発掘していかないと組織は生き生きとはならない。組織への加入者を増やしなが、組織に貢献する人材を育成（後継者を育成）するという課題を地域は抱えている。</p> <p>○このため、町内会の加入促進と人材育成が、地域コミュニティの活性化のための両輪と言え、懇談会では、加入促進策と人材育成策を示すことが求められている。</p> <p>○最初に区町内会連合会へ方策を提示して意見を求めるという手順を踏むことも大切である。町内会が頑張る為には、小学校単位の連合町内会が本気になることが大切であり、さらには、連合会を指導する立場にある各区の区町内会連合会が学区町内会連合会の後押しをして支えることが重要である。</p>